

◆新技術定着試験

## ケージ式シャコガイ類養殖試験

甲斐哲也

### 1. 目的

ヒレジャコの小割式（ケージ式）養殖は八重山漁協、恩納村漁協などで先進的に実践されており、平成10年の漁業権更新を経てようやく県内各地に普及し始めているところである。本試験では、平成15年の次期漁業権更新時に、ケージ養殖に新規参入を目指す経営体の協力を得ながら、特区漁業権を未取得の漁協地先等で養殖試験を行い、当該地域での養殖が普及可能であるかどうかを検討する。

### 2. 材料及び方法

水産試験場八重山支場で生産されたシャコガイ

イ類種苗を今帰仁漁協地先、名護市屋我地島地先に設置した養殖用ケージ（1m×2m）数基内に収容し、ケージに付着する藻類などの清掃等、随時必要な管理をしながら平成11年度以降、以下のグループで養殖試験を行った。

- ①運天漁港周辺 今帰仁漁協 運天グループ
- ②屋我地島東南海域 羽地漁協 名嘉グループ
- ③古宇利漁港周辺 今帰仁漁協 玉城グループ

### 3. 結果

それぞれのグループ別に、平成10年度以降に導入した種苗の数や大きさ、養殖試験前後の殻長、生残率等を表1にまとめた。

表1 シャコガイ類養殖試験結果概要

グループ名	種類	沖出月	沖出時殻長	沖出個数	最終計測日	生残数	生残率(%)	殻長(mm)	養殖期間
運天 (運天地区)	ヒレ	H11年5月	8~29mm	300	H13年6月	90	30.0	130.0	25ヶ月
	ヒレ	H11年5月	8~29mm	1,200	早期全滅	0	0.0		
	ヒレ	H11年12月	8~20mm	500	H13年6月	56	11.2	113.6	18ヶ月
	ヒレ	H11年12月	18~27mm	1,000	H13年6月	118	11.8	119.9	18ヶ月
	ヒレ	H13年7月	24mm	968	H14年3月	0	0.0		
	ヒレナシ	H13年7月	29mm	572	H14年3月	277	48.4	115.1	7ヶ月
名嘉 (屋我地地区)	ヒレナシ	H10年11月	4~24mm	3,590	H11年11月	6	0.2	99.0	12ヶ月 波浪で消失
玉城 (古宇利地区)	ヒレナシ	H12年11月	9~21mm	5,000	H14年3月	53	1.1	67.9	17ヶ月

平成13年度の新規種苗導入は運天グループに対してのみ行った。5月2日に八重山より空輸したシャコガイ類種苗を約3ヶ月間陸上水槽で飼育した7月25日、ヒレジャコ968個（同24mm）、ヒレナシジャコ572個（殻長平均29mm）を養殖ケージに移動した。9月4日の計数で前者の生残数は50/968個（5%）、後者は150/572（26%）程度であった。陸上水槽で3ヶ月育成してからの海中移動であったため、高い生残率を期待したが特にヒレジャコの生残率は極めて低く

平成14年3月までに全滅した。

### 4. 考察

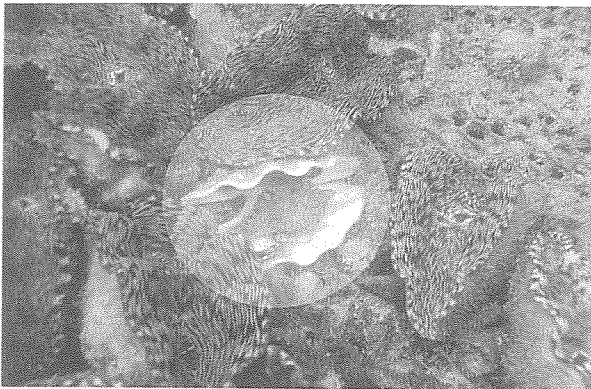
試験期間中、今帰仁漁港周辺海では古宇利架橋工事等によると思われる濁りが断続的に発生したため、シャコガイ類の養殖には大変不利な状況であった。架橋工事は平成17年まで続く。透明度の低下はシャコガイ類の共生藻の光合成を妨げ、また降り積もる泥などは貝にとって大きなストレスとなるため、頻繁に清掃をする必

要がある（漁労コストの増加）。本年度までの試験養殖の種苗生残率はかなり低いですが、現在シャコガイ類の養殖用種苗は1個5円であること、これまでの出荷実績として2年程度養殖した殻長23cm程度のものが1個数百円（正確な数字は記さないが八重山地区における養殖物の販売実績と同等）で販売することができたこと等から、当地でのシャコガイ類養殖は現状でも決して採算がとれないわけではない。架橋工事終了後は

水質が改善され、ケージ清掃の頻度を減らしつつ、より高い歩留まりを期待できる。

ケージ内から、ヒレナシジャコを捕食中のフジツガイ科シノマキボラが見つかった（写真）。通常のケージ内外の清掃作業に加え、このような肉食貝が成長しないように随時ケージ内の全ての貝を他のケージに移すなどして、徹底した清掃を心掛ける必要がある。

#### ケージ内でヒレナシジャコを食べていたシノマキボラ



現在、今帰仁漁協はシャコガイ類養殖のための新規漁業権設定の作業を行っている。養殖試験を行っている運天漁港近くに比べ潮通しがよく水質の良い、より沖合側の海域と古宇利島周辺に、参入漁業者数に応じた規模で特定区画漁業権（貝類小割式）を取得する予定である。ケージ養殖により生産されたシャコガイ類は、沖縄県漁業調整規則で定められた殻長や禁漁期の制限を受けずに出荷することができる。小型のヒレジャコやヒレナシジャコをヒメジャコの代替品として、また近年人気の高い観賞用として出荷することなど、流通経路の開拓が今後は重要となるだろう。